

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名:「魔王と勇者の友達大作戦」

テーマ:「勇者なのに友達がいらない美少女」

キャラクター

45

ストーリー

40

テーマ(設定)

40

文章力

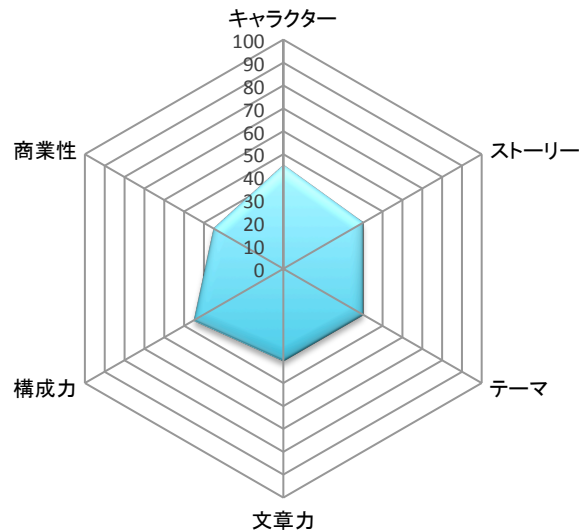
40

構成力

45

商業性

35



・見受けられる基礎的な問題点

- キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- 物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- 物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- 物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- 意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- 時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- 物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- 文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- 伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- 笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- 「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・美少女勇者に関する描写がほとんど見当たらない。友達が欲しいという願望をもちながらドジで臆病な面も見られるなど、行動によるキャラ描写が優れているだけにそれに伴う外見描写がないのは本当にもったいない。これを書くだけで作品の面白さ(読む側の想像しやすさ)は格段にあがると思われる。

・魔王と勇者が友達になるというテーマの面白さは、そう簡単に仲良くすることができない立場の二人が、それでも何かの事情があり仲良くするというその過程にあると考えられる。今作では比較的容易に友達になれてしまっているため、「じゃあ、僕と友達になってみる?」という台詞はむしろ作品の一番最期にくるくらいが恐らく一番面白くなったような印象を受けなくもない。

・構成、文章自体に不備は感じなかった。あとはいかにして二人が仲良くなる過程にオリジナリティを生み出すかにかかっていると思われる。

合計加点ポイント 0

総得点: 245 / 600

B方式総合得点: 10004 点